

事業名



戦後 80 年の節目に

実施団体

NPO 平安京

「過去を変えたり、起こらなかったことにするわけにはゆきません。しかし過去に目を閉ざすことは、結局、現在にも盲目となるのです。」
有名な演説の一説です。

過去の記憶を記録し、未来を生きる知恵として伝えることは、現在に生きる者の務めです。それは私たちが暮らす上京にもあります。



① 催事「戦後 80 年の節目に」の開催

令和 7 年 10 月 11 日(土) 午後 1 時 30 分より上京区総合庁舎 4 階区民交流会議室で、西陣空襲の体験談『西陣空爆 被災 80 周年に想う』を水口章氏に語っていただくとともに、京都放送劇団による終戦直後の満州を舞台にした朗読劇『荒野に生きる』を上演。

上京区にも太平洋戦争のキズ跡があり、そして、二度と悲惨な戦争を繰り返してはならないことをこの催事を通じて訴えました。

§ 西陣空爆 被災 80 周年に想う §

語り部：水口章氏

昭和 20 年 6 月 26 日、アメリカ軍による空爆が西陣の地にありました。その被弾地の一つ辰巳公園には『空爆被災を記録する碑』と記された石碑が建っています。

その被災から 80 年、体験者としてその想いを語っていただきました。



§ 朗読劇『荒野に生きる』 §

テレビが普及する以前、マスメディアは新聞とラジオでした。

当時、NHKの各支局には放送劇団があり、京都にはNHK京都放送劇団がありました。それにルーツをもつ京都放送劇団が、終戦直後の満州を舞台に、ソ連軍が侵攻する中、祖国を目指す日本人の生き様を描いたものがたり『荒野に生きる』を朗読劇（ラジオ劇）で演じていただきました。



②「西陣の空爆 建物疎開 学童疎開」パネル展

上京区総合庁舎 1F 区民交流ロビー 10月5日(日)～10月18日(土)



西陣の空爆



堀川・智恵光院通の建物疎開



正親校の学童疎開